



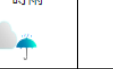





# 農作物の当面の技術対策について

令和4年5月10日  
農業技術課

## 1 気象概況

甲府地方気象台の週間予報によると、この先の天候は前線の影響により曇りや雨の日が多く、最高気温も平年並～やや低い予報となっており、病害等の発生が心配されます。農作物の管理に十分注意してください。

山梨県の天気予報（7日先まで）									
2022年05月10日11時 甲府地方気象台 発表									
日付	今日 10日(火)	明日 11日(水)	明後日 12日(木)	13日(金)	14日(土)	15日(日)	16日(月)	17日(火)	
山梨県	晴時々曇 	曇 	曇 	曇時々雨 	曇一時雨 	曇 	曇 	曇 	
降水確率(%)	-/-/0/10	0/20/30/10	20	70	60	40	40	40	
信頼度	-	-	-	A	B	C	C	C	
甲府 気温 (℃)	最高	25	23	28 (25~30)	20 (19~26)	24 (22~28)	26 (23~30)	19 (18~25)	20 (17~25)
	最低	-	11	14 (12~16)	17 (16~19)	18 (16~20)	18 (16~20)	15 (13~17)	14 (12~17)
		向こう一週間（明日から7日先まで）の平年値							
		降水量の7日間合計			最低気温		最高気温		
甲府		平年並 7 - 20mm			13.3℃		25.0℃		

## 2 技術対策

### 果 樹

- ・ 次回の散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず必ず降雨前に散布する。
- ・ 雨の日が多く、農薬散布時に葉が濡れているときは、SSの送風ファンなどで露を払ってから散布を行う。

### <ブドウ>

- ・ ベと病や晩腐病の感染予防対策として、農薬防除の散布間隔が空かないよう、防除暦に従い定期的防除を徹底する。

ただし、べと病が発生している園では、発病部分を取り除き、圃場外へ持ち出すとともに、ジャストフィットフロアブル 5,000 倍をかけむらのないよう丁寧に散布する。なお、同剤は周辺に立木類がある場合は、飛散しないように注意する。耐性菌の発生を防ぐため、連用を避け年1回の使用とする。

#### <モ モ>

- ・黒星病の重点防除時期にあたるため、農薬防除の散布間隔が空かないよう、防除暦に従い定期的防除を徹底する。
- ・せん孔細菌病の発生している園では、発病している枝・葉・幼果は、見つけしだい除去し圃場外へ持ち出す。天候不順が続く場合は、マイコシールド1,500倍（収穫21日前まで／5回以内）を散布する。

#### <施設及び雨よけ栽培>

- ・夜温の温度不足による品質低下や生育の遅れを防ぐため、サイドビニールの開閉や加温の稼働などにより、ハウス内の温度確保に努める。
- ・成熟期以降のハウスブドウでは、裂果やそれに伴う灰色かび病の発生を防ぐため、ハウス内への雨水の浸入を防ぐとともに、ビニールマルチ、循環扇（攪拌扇）や加温機の稼働・空回しを行う。また、ハウス内を巡回し裂果した果粒は取り除く。
- ・オウトウの雨よけ栽培では、裂果を防ぐため、ハウス内への雨水の浸入を防ぐ。

### 野菜

#### <施設野菜>

- ・病害の発生を予防するため、施設内が過湿にならないよう、日中25～28℃前後を目標に換気する。
- ・灰色かび病、疫病、斑点細菌病などの病害の防除を徹底する。

#### <露地野菜>

- ・ほ場が滞水しないように、排水路を設けるなど排水対策を徹底する。

### 花き

- ・日中のハウス内温度上昇と多湿による灰色かび病等が発生しやすいために、こまめなハウス内換気に努めるとともに、かん水量を控えるようにする。
- ・洋らん類では、曇天時には遮光を控え日射量の確保に努める。また、曇天後の晴天により急激な日射量の増大による日焼けが懸念されるため日射量の調節に努める。

### 作物

#### <麦類>

- ・現在、高冷地で出穂期を迎えている。出穂前後に降雨が多いと赤カビ病が多発する場合がありますので、薬剤散布を行う。